

教員プロフィール

Staff Profile

2026



岐阜市立女子短期大学
Gifu City Women's College

教員プロフィール 発刊にあたって



学長 大田 康雄

専門分野

高分子構造、繊維工学

学位・資格

博士（工学）

本学は、「戦後の復興は女子教育から」の理念の下に1946年に設立され、女性人材の高等教育機関として80年の歴史を刻みながら、既に1万8千人を超える有為な人材を社会に送り出してきました。現在の校舎に移転した2000年以降、英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科の4学科編成を維持してきましたが、変貌する国内外の社会状況を鑑み、2023（令和5）年度より、国際コミュニケーション学科、健康栄養学科、デザイン環境学科の3学科へと改編しました。入学定員は毎年200名とし、公立ならではのきめの細かい少人数教育を継続させています。

2025年、文部科学省の中央教育審議会から（我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～）において我が国の高等教育のあるべき姿が示されました。教育研究の質の向上とともに、意欲のある人々に高等教育の機会均等を図ること、特に公立大学においては地域の行政や産業と密着した施策を進める存在であることが提言されています。

本学では2030年を目指した「岐阜市立女子短期大学ビジョンー岐女短発10年後に向けた提言ー」を2020（令和2）年12月に取りまとめています（[ご参照：本学HP>情報公開>運営委員会報告書](#)）。その中で、女子教育の重要性と共に、本学の役割として以下の点を確認しています。これらは、今般の中教審の方向性と一致するものであり、さらにその理念を今後も強化して参ります。

○公立大学としての役割

地方公共団体の人材養成等の各種政策をより直接的に体现・教育する役割、教育機会の均等の実現、地域活性化の推進、行政課題の解決

○短期大学としての役割

地方の進学機会の確保、高齢者も含めた社会人へのリカレント教育を通じた地域貢献

この「岐女短ビジョン」を踏まえた各種施策、具体的に以下の取り組みを推進しています。

- ①入学時から「学修ポートフォリオ」を活用し、学生一人ひとりに寄り添った教育指導。
- ②一年時の前期は学科全体を俯瞰する教育、後期から専門領域の教育。
- ③全学生に対し「AI・データサイエンス教育」を提供（DS教育）。
- ④全学生が「岐阜学入門」を学修し、地域をフィールドに専門実践学修を経験（岐阜学）。

さらに全学組織として、地域連携センター（CeNCER）とデータ駆動教育研究センター（CeDS）を立ち上げ、地域社会と連携した学生教育とともに、桃林同窓会と連携した社会人リカレント教育のさらなる充実を目指しています。

本冊子は、本学の全教職員が一丸となって進めている上記のような取り組みの中で、ステークホルダーの方々にぜひ知っていただきたい全教員のプロフィールと最近の活動紹介を取りまとめたものです。皆さまと本学教員の新たなコミュニケーションの一助になればと願っています。

岐阜市立女子短期大学について

大学のあゆみ

本学は、1946年に東海地区で最初の公立女子専門学校としてスタートしました。その後、男女共学の岐阜専門学校となり、その翌年には岐阜短期大学となりました。そして1954年に女子のみの岐阜女子短期大学となり、1988年に岐阜市立女子短期大学と改称し、現在に至っています。本学は「岐女短」の愛称で地域に親しまれており、これまで数多くの優れた人材を世に送り出してきました。2000年にキャンパスを移転して最新の施設・機器を備え、2026年には創立80周年を迎え、学生の<学びと成長>のために充実した環境と教育を提供してまいります。

沿革

- 1946年 岐阜女子専門学校としてスタート
(英文科・生活科・被服科)
- 1949年 岐阜専門学校に改称
- 1950年 岐阜短期大学設置
生活科、被服科を家政科に統合
- 1954年 岐阜女子短期大学に改称
- 1955年 家政科を改組して生活科・被服科を増設
- 1969年 英文科を英文学科、
生活科を食物栄養学科、
被服科を被服学科に学科名変更
- 1988年 岐阜市立女子短期大学に改称
- 2000年 キャンパス移転
国際文化学科を新設
英文学科を英語英文学科、
被服学科を生活デザイン学科に学科名変更
- 2023年 学科改編により、英語英文学科と国際文化学科を統合し、国際コミュニケーション学科に学科名変更
食物栄養学科を健康栄養学科に、生活デザイン学科をデザイン環境学科に学科名変更

教育機関組織（2026年4月時点）



岐阜市立女子短期大学
Gifu City Women's College

国際コミュニケーション学科

現代社会領域
文化交流領域
外国語領域(英・中・韓)



健康栄養学科

医療・福祉領域
食環境領域



デザイン環境学科

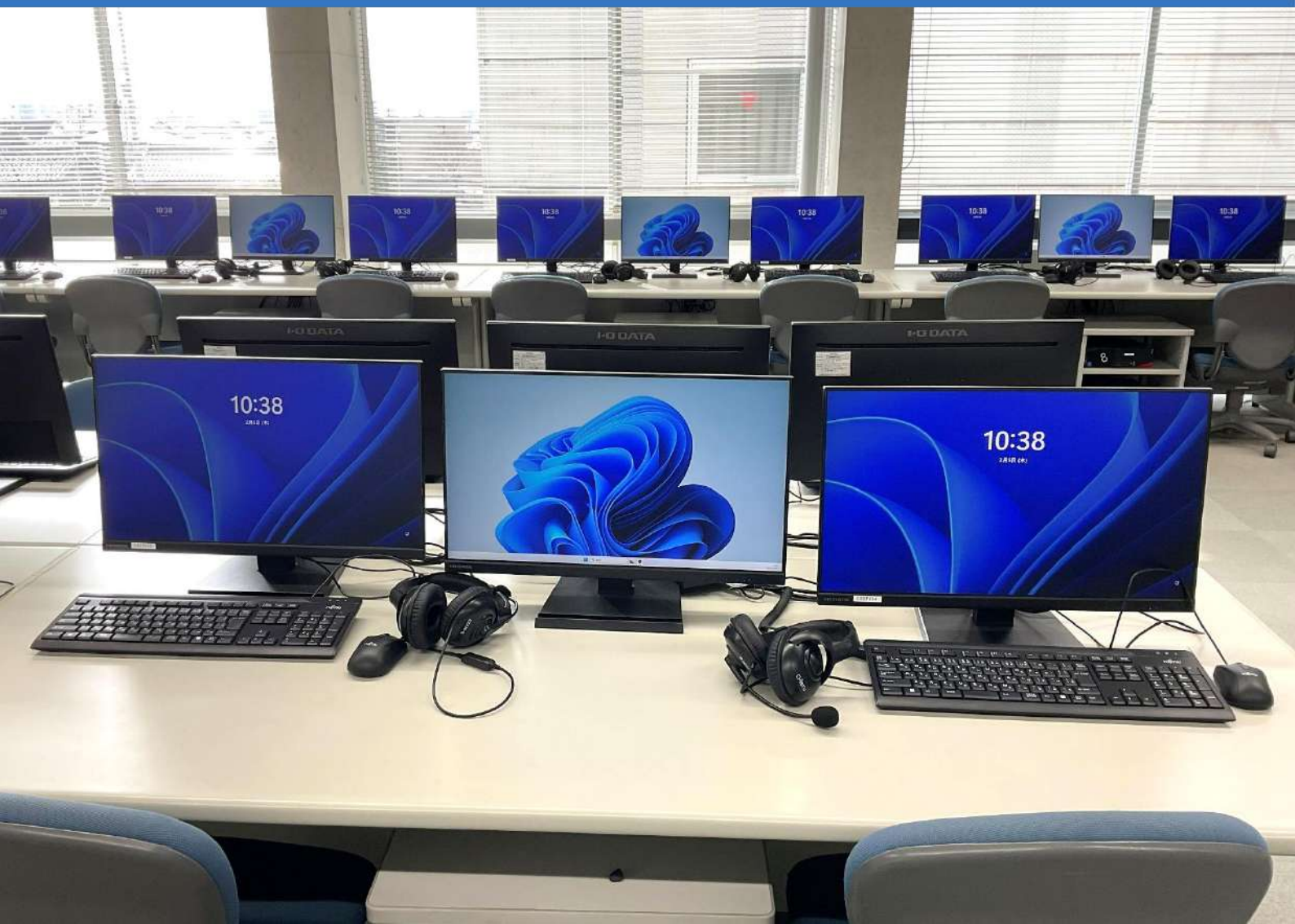
ファッション領域
建築・インテリア領域
ヴィジュアル・情報領域



国際コミュニケーション学科

Department of International communication

教 授	川上 新二
教 授	村中 菜摘
准 教 授	コットン ランダル
准 教 授	孫 ミギョン
准 教 授	佐竹 直喜
専任講師	王 張璋
専任講師	長谷川 旭
助 手	川合 真由美



文化交流領域

教授 川上 新二

専門分野

宗教民俗学
宗教人類学

学位・資格

博士（仏教学）

研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

仏教の研究には、教義（教え）を研究する立場と、各社会の人々によって実際に受け入れられている（受け入れられてきた）様相を研究する立場とがあります。私は後者の観点から東アジアの仏教について調べています。現在は、韓国で朝鮮王朝時代に出版された靈驗譚集の読解を通じて、儒教が支配的であった時代に仏教が朝鮮社会にどのように浸透しようとしていたのか、どのように浸透していたのかを考察し、中国や日本の仏教説話とも比較しながら、仏教が社会に広まる様相について研究しています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

仏教思想をもとに記された中国の現代小説の翻訳

中国の作家出版社から2017年に発行された楊志鵬氏の長編小説『百年密意』を訳しています。中華民国期から文化大革命の時期、村での大地主になりあがったものの、反革命分子の烙印を押されて死んだ祖父と、改革開放30年を経た2010年代、都会での土地開発ブームに乗って一攫千金を夢見るその孫とを主人公に、彼らと、祖父が若い頃に関係を持った同じ村の大富豪の妻やその孫娘に当たる女性とのかわり合いを描きながら、百年に渡り彼らを見守ってきた僧侶も登場させ、彼らが負う苦しみは執着にとらわれて輪廻から逃れられないゆえであり、執着を離れて輪廻から脱することが救いとなることを主人公に悟らせるという内容です。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

ゼミ生との、ぎふし男女共同参画情報紙「織」の企画、編集

令和2年度からゼミの学生と一緒に、岐阜市女性センターとのコラボ企画として「ぎふし男女共同参画情報紙・織」の企画・編集を行っています。参加した学生の感想を編集後記から紹介します。

「最初のテーマ決定から編集作業に至るまで、他者の意見に耳を傾けることの大切さ、一人ひとりの考えを尊重し、意見をまとめていく難しさを学びました。」（織VOL.21）

「男女平等に向かっている現代では、意識することがたくさんあり、プレコンセプションという言葉や意味、必要性に気がつくことができました。」（織VOL.22）



文化交流領域

教授 村中 菜摘

専門分野

日本文学（中古・中世）
和歌 藤原定家
物語撰取・漢詩文撰取

学位・資格

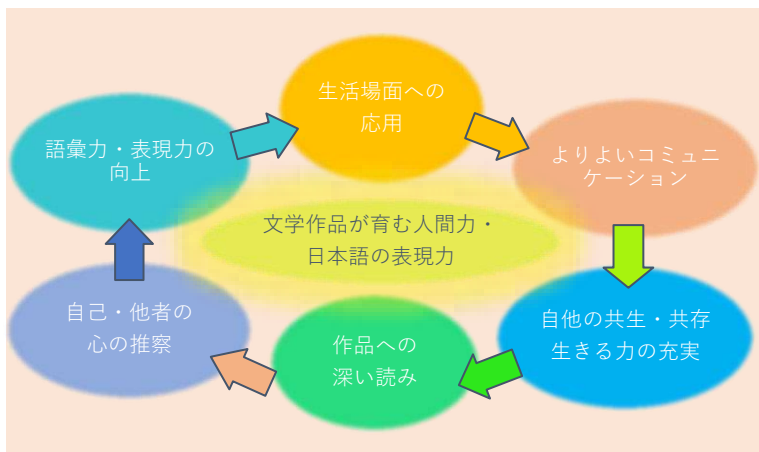
博士（文学）
日本和装教育協会 師範

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

日本の文学作品に込められた作者の姿勢や登場人物の生き方を読み解くことで、人間の心の理解につなげ、自分を知ることによって人生をよりよく生きるヒントを見つけることを目指します。加えて、社会を生きる上で他者の存在は切り離せないものです。他者とよりよい関係を構くためには、相手の立場や気持ちを汲み取り、それをことばなどで適切に発信し受け取る、言語・非言語コミュニケーションの能力が欠かせません。日本文学作品の登場人物の心の動きや作者の意図を推察し、さまざまな日本語の表現方法に触れる行為は、日常の生活で活かせる日本語の語彙力や表現力を磨くことにつながります。



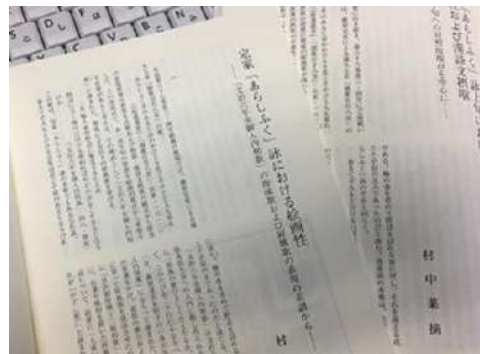
最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

和歌表現の研究から、日本のことばの魅力を伝えたい

藤原定家の和歌表現を研究しています。定家は『新古今和歌集』の撰者の一人で、時代を代表する歌人です。武士の勢力が、天皇制を中心とした貴族社会を根底から覆した当時、定家は、和歌という貴族文化の象徴が減びないよう、新しい表現を開拓したり、古典を書写したりして後世に遺しました。今日私たちが古典文学作品を読むことができるのは、定家のおかげなのです。

和歌はそもそも、人が心に抱く感情を吐露する手段で、その心は形を変えつつ現代に受け継がれています。和歌のことばの力、つまり「伝えたい」という熱意と、よりよく伝えるための表現の工夫が、現代のコミュニケーションにも役立つといえます。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

岐阜市立女子短期大学公開講座

岐阜市立女子短期大学公開講座で、日本の古典文学の講座を担当しました。今年度は紫式部の和歌と人生について講義しました。

日本文学作品の世界を味わう作業を通して人生をよりよく生きるヒントを見つけることで、受講者の皆さんの日々の活力につなげることができたらと考えています。日本文学を切り口に、本学卒業生の学び直しや、地域の皆様の心豊かな生活を応援します。



外国語領域

准教授

コットン ランダル

専門分野

英語教育学

学位・資格

修士（教育学）

研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

私は、あらゆる年齢の岐阜市民に対して、英語の授業を構成し、英語を教えることができます。同様に、外国語としての英語を教えている私の経験と知識を活用し、岐阜市内の英語教員を支援することができます。

私は、岐阜市に住む外国人居住者を助けている岐阜市の行政機関を支援することができます。具体的には、最近岐阜に来た外国人が、岐阜での生活がより容易に暮らしやすくなるように、直接サポートすることができます。

日本に住むアメリカ人としての知識と経験を活かして外国の顧客を引き付けたいと考えている岐阜のビジネスを支援することができます。具体的には、英語でウェブサイトを作成したい企業を、英語のウェブサイトのコンテンツを編集したり、アドバイスしたりすることで支援することができます。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

人々と交流する

英語によるコミュニケーションおよびライティングのスキルを修得する授業では、学生が自然に自分を表現できるようにすることを目指しています。練習とフィードバックを繰り返すことで、学生は自分の考えや経験を英語で伝える自信をつけ始めます。学生は主に英語を勉強していますが、彼女たちが習得したスキルは、クラス外の様々な人々と交流するときにも役立ちます。

公開講座などの一般市民向けの授業を通じて、海外での考え方や生活についての理解を深めていきたいと思います。私は、英語を話す文化についてもっと学びたいと思っている老若男女の方々全てに対して、ユニークな学習の機会を提供することができます。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

GIFUをPRする

日本を訪れる多くの外国人観光客は「本当の」日本を見たいと言います。これは日本の伝統文化を見て体験したいということを意味します。このゼミでは、海外の人々に英語で日本文化を紹介する様々な方法を学びます。学生はフェイスブックなどのソーシャルメディアに投稿する英語コンテンツを作成する練習をします。興味深いコンテンツを作成するために、リサーチやフィールドワークを行い、岐阜の伝統文化や現代文化について学んだことを書く練習をします。そして学んだことをソーシャルメディアに投稿します。その後、その投稿を見た人からの岐阜を訪れることについての質問に答えます。



外国語領域

准教授 孫 ミギョン

専門分野

日・韓地域研究
 日・韓の社会と文化(コンテンツ)
 エスニックコミュニティ研究

学位・資格

博士(文化コンテンツ)

研究者情報
 (Research Map)



専門分野と社会との関わり

近年、外国人住民の増加により、日本国内には多様なエスニックコミュニティおよびエスニック空間が形成されつつある。こうした空間は、単なる生活圏にとどまらず、日本社会における文化的接点として機能しており、多文化的実践や異文化交流が日常的に交差する場となっている。その存在は、ローカルな文脈においてグローバルな経験を可能とする、いわば「縮約された地球規模空間」としての意義を有している。現代のように複雑化・多極化する国際社会においては、単なる語学力や知識以上に、相手の価値観を的確に捉える感受性や、文脈を読み解く共感性が不可欠である。

私は、エスニックコミュニティの形成やその社会的機能に関する研究に加え、青森県庁国際交流員としての実務経験、ならびに北東アジア地域自治体連合(NEAR)事務局における各国との実質的な交流活動を通じて、地域・国家間を横断する知見を培ってきた。

今後は、これらの実践と理論を架橋しつつ、学生が多文化的視座を獲得し、国際的感覚と創造的思考を兼ね備えた人材として成長できるような教育環境を構築していきたいと考えている。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

大阪・生野を対象に、エスニック空間の形成過程と地域社会との関係性に関する研究を行っている。とりわけ、移民の歴史的蓄積の中で、多文化が交差する都市空間における葛藤と調整のプロセス、ならびに住民主体の実践を通じた共生の具体的なあり方に関心を置いている。こうした分析を通じて、都市空間における新たな公共性の形成や、多文化社会への移行に伴う構造的課題について検討している。さらに近年では、非集住地域における在日コリアン・コミュニティの形成と持続のメカニズムに着目し、空間的集中に依拠しない関係性の維持や象徴的実践の役割についても分析を進めている。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

自分の興味を深め、挑戦を後押ししてくれるゼミ

私たちのゼミでは、韓国と日本の文化の違いや、現代韓国の社会事情について書かれたさまざまな資料を読みながら、韓国に対する理解を深めていくことを大きな目的としています。授業では、先生ご自身の体験を交えたお話も多く、教科書だけではわからないリアルな韓国を知ることができるのも魅力です。

また、希望者には韓国語能力試験(TOPIK)の長文対策にも取り組む機会があり、読解力や表現力の向上にもつながっています。

私は、日韓のスピーチコンテストに参加した際、韓国語の難しい発音について丁寧に指導していただき、大会では良い結果を出すことができました。さらに、韓国の大学への編入準備を進める中でも、わからないことがあればいつも親身になって相談に乗ってくださっています。

ミギョン先生は、学生一人ひとりの挑戦を大切に、温かく背中を押してくれる存在です。韓国語を基盤に、韓国文化全般について学びながら、自分の視野や興味を広げることができるゼミです。

外国語領域

准教授 佐竹 直喜

専門分野

英語教育、
第二言語習得

学位・資格

修士（教育学）
高等学校教諭専修免許状（英語）
中学校教諭専修免許状（英語）研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

2025年度岐阜市立女子短期大学に着任しました、佐竹直喜です。大学院修了後は愛知県の公立高校で英語教員、その後H27年度からR6年度まで岐阜工業高等専門学校の教員（一般科目・英語）をさせていただきました。高校教師、高専教員として、生徒に英語の授業などをしながら、英語の指導や学習者の言語習得について研究を進めてきました。学校の英語授業と大きく関わりの持てる分野です。この積み上げてきた研究・教育経験を活かし、英語指導についての実践と研究を引き続きさらに深めていければと思います。

主に行ってきた研究

- ・言語学習における気づき(noticing)に関する研究
- ・学習者と動機減退(demotivation)
- ・リスニング教育の研究
- ・機械翻訳と英語ライティング など



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

論文等

- ・中学時英語授業における英語使用状況・ICT活用等の実態調査（佐竹 直喜）
岐阜工業高等専門学校紀要 59 1-6 2024年
- ・（研究ノート）英語の訳読への誤解を解く（佐竹 直喜） 言語文化学会論集 60 253-258 2023年 など

著書

- ・自分の英語学習についてそれぞれが考え話し合うきっかけのための本（佐竹 直喜）
ブイツーソリューション 2024年
- ・授業力アップのための英語教育学の基礎知識
久保田 章・林 伸昭(編)(第14章リーディングの指導と評価 担当) 開拓社 2019年
- ・Fundamental Science in English I-理工系学生のための基礎英語I-
亀山太一・青山晶子・武田淳監修(分担執筆)
成美堂 2017年

など

授業紹介／ゼミ生による教員紹介

英語教育、第二言語習得のゼミです

佐竹先生のゼミでは英語教育や第二言語習得についての勉強を行っております。入門書レベルの購読からはじめ、教育や学習の実践に役立つようなことも学びます。卒業論文では、英語学習に関わる興味のあるテーマを選び、じっくり研究を行って、学習方法に関して少しでも新しい提言を行うことを目指します。

研究テーマの設定と計画

- ・4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）、語彙学習、モチベーション、教材研究、指導方法、電子機器での学習等々いずれにしても言語の習得、英語の教育に関心のあるテーマを見つけていく、現実的に卒業論文でできるかも考える（卒業論文では言語学習、言語教育に少しでも提言ができることを目指す）
- ・年間の計画 前期中は専門書等で知識の土台を作る→夏休み中にテーマを設定＆テーマに関する文献を読み進める→後期中に卒業論文作成を本格的に進めていく

国際コミュニケーション学科



外国語領域

専任講師 王 張璋

専門分野

異文化経営学
観光学

学位・資格

修士（文学）

研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

異文化の魅力に惹かれ日本にきた。留学6年、その後自動車業界に10年、中国の水族館に5年勤務し、2021年から教員になった。振り返れば人生の半分は中国、半分は日本で生きてきた。そのため、日中間における価値観の違いや異文化理解の難しさを実感し、これまで培ってきた知識と実務経験を持って、異文化経営における文化的壁、人材育成などの課題に取り組んでいる。

時代と共に著しく日本社会が変化してきている。“タイパ”や“コスパ”などの新しい特質を持った若い世代に、適合した知識の移転方法や、人材育成の方法を模索している。自身の経験と知識を最大に活かし、実践に特化した「問題解決」を教育に取り入れ、多様な人材輩出に貢献したいと考えている。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

水族館での実践活動を通じて

私の研究フィールドである水族館は「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査・研究」、「レクリエーション」といった4つの社会的役割をもっている。私たちが水族館に行って癒されたり、いろんな生物に触れ合ったりすることは、ほんの一部の役割に過ぎず、水族館は実際もっと高い社会貢献と持続的な発展が求められている。そのため、水族館は経営と研究の両立、動物保護とショーのギャップ、生物の命を扱った研究活動など、さまざまな課題を抱えている。

私の教育活動の一つとして、一水族館を楽しむ消費者ではなく、学生と一緒に調査したり、トレーナーと一緒に働いてみたりなどの実践活動を通じて、水族館の課題解決を試みる。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

王ゼミについて

私たちのゼミでは、地域が抱える課題について、自分たちでテーマを決めて調査し、解決方法を考えます。問題解決の基礎を学びながら、ネットワーク大学コンソーシアムぎふの提案事業にも参加し、実践活動をしています。今年度は岐阜市に住む外国人における日本語教育問題に取り組んでおり、行政機関・地域住民・日本語教育機関・外国人を対象に調査し、12月に発表する予定です。私たちはこのゼミ活動を通して、問題に対する考え方を身につけることができた実感しています。

和歌山へのフィールドワークでは、那智の滝や生き物とのふれあいを通じて観光資源を体感しました。先生が大きなおみくじを引く場面があり、学びと楽しさの両方を兼ね備えたゼミです。





現代社会領域

専任講師 長谷川 旭

専門分野

人間工学
モバイルシステム
ヒューマンインターフェース
情報科学

学位・資格

博士（情報科学）
情報セキュリティアドミニストレータ
MBA

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

モバイル情報端末の特性に関する人間工学的な評価と応用システムの開発をテーマに研究しています。また、技術の応用として、医療や防災、教育等を目的とした多言語システムを、企業等と共同研究として、人間工学的な評価／監修等をしてきました。

高等教育機関においては学問の分野によらず、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、活用することが求められています。変化の激しい「情報」の分野ですが、時代に即したスキルやデータリテラシーを学生さんが身につけられるような教育に力を入れています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

時代に応じた情報教育の在り方についての検討

高等学校教科「情報」は、学習指導要領改訂に伴い、2022年度高校入学生から教育内容が刷新されています。高校での学びに変化は、大学に入学する学生さんの変化に直結しており、大学が提供すべき学習内容も変化させる必要があります。そこで、高等学校教科「情報」について、実態を調査するとともに、大学に必要な情報教育の教材開発を行い、効果的な教育方法を確立することを目指としています。

また、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験「ITパスポート」に多くの学生さんが合格できるように、対策勉強会などの教育活動を行っています。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

パソコンが苦手でも大丈夫！岐女短のパソコン博士

長谷川先生はAIやIT、パソコンなど、デジタルのことなら何でも知っている「岐女短のパソコン博士」。でも、単なる専門家というだけでなく「わからない...」「難しそう...」という気持ちもしっかり受け止めてくれる先生です。

授業では、身近なたとえや具体例を使って説明してくれるので、パソコンが苦手でも大丈夫！「どう使うと役立つのか」「どんな意味があるのか」というところまで教えてくれるので、自然と「考えながら使う力」が身につきます。

また、長谷川先生は、授業だけでなく、研究や進路の相談でも一緒に考えてくれます。一人ひとりのことを大事にしてくれるから、安心して相談できる先生です。



教育・研究・地域貢献などへの抱負

学生が授業内容を明確に理解できるようサポートし、苦手意識を持たず、意欲的に学習できるようサポートしています。特に情報機器の操作に不慣れな学生には個々に対応し、検定試験対策では一人一人をチェックし指導しています。

学内でTOEIC IPテストを年間3回実施し、学生に受験を促し、2年間で各々が目指すスコアに近づけるようサポートしています。スコアが伸び悩んでいる学生の相談に乗り、苦手なパートはどこなのか、どんな自己学習をしたらよいのかを考え、モチベーションが上がるような指導を目指します。

一人一人の学生に寄り添える、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けています。

助手 川合 真由美



健康栄養学科

Department of Health and Nutrition

教 授	小野 廣紀
教 授	道家 晶子
教 授	松井 卓哉
准 教 授	佐野 真也
准 教 授	長屋 郁子
専任講師	吉川 亮平
専任講師	佐喜眞 未帆
助 手	渡邊 優子
助 手	酒井 千恵
助 手	黒木 由希子



教授 小野 廣紀

専門分野

食品科学
応用微生物学
栄養学

学位・資格

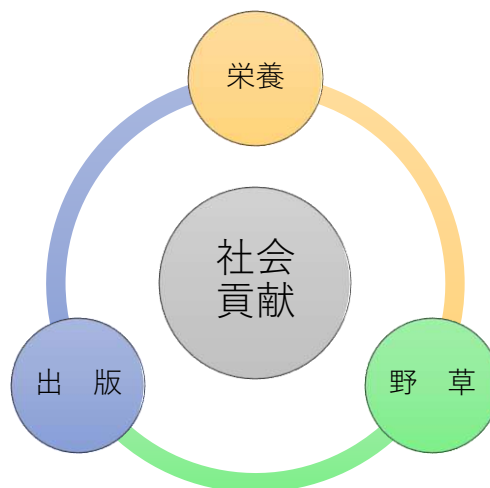
博士（農学）

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

- ①「食と健康」にまつわるテーマを取り上げ、栄養学に関する論文を執筆しています。
- ②未利用資源である野草から食品微生物に対する抗菌活性物質を検索し、安全かつ安心できる抗菌剤の開発に取り組んでいます。
- ③栄養士・管理栄養士を目指す学生向けに、専門教育科目のテキストを執筆・出版しています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

栄養士・管理栄養士の養成一筋！

長きにわたり、栄養士や管理栄養士の養成に尽力しています。長年の教育・研究の経験を活かして執筆した栄養学や生化学のテキストは、数多くの短期大学や4年制大学で採用していただいており、栄養士・管理栄養士の養成に寄与しています。

【栄養士養成に関係する受賞歴】

- ①一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長顕彰（2019/11）
- ②令和2年度・栄養関係功労者（栄養士養成功労者）
厚生労働大臣表彰（2020/8）



地域貢献活動

基礎栄養学

ヒトが生きていくためには、水や空気（酸素）のほかに食物（食品）が不可欠です。食品には5つの大切な成分（五大栄養素）が含まれており、それらの体内に入るしくみ（消化・吸収）や体内に入ったあとの各栄養素の役割について学ぶ科目が基礎栄養学です。



教授 道家 晶子

専門分野

食品科学・食品加工学
食育・食環境

学位・資格

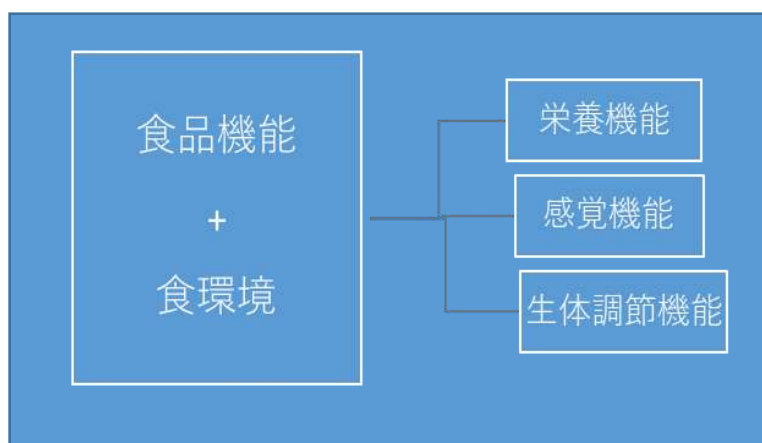
博士（農学）
管理栄養士

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

食品機能には、たんぱく質やビタミンなどの栄養機能、色素や香気成分などの感覚機能、抗酸化成分などの生体調節機能の3つの機能があります。この食品の持つ3つの機能を食生活に活かし、適切な食品選択により健康長寿の延伸を目指します。食品選択には、食品機能を活かす選び方のほかにも、持続可能な食環境の構築も考慮する必要があります。大量生産、大量消費のシステムによる安価で画一的なものを求めるのではなく、地産地消、有機栽培など土壌にも人にも優しい作り手や消費者を増やし、岐阜県民の健康増進や食育推進に繋がる教育や研究に心掛けて取り組んでいます。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

食品について深く知り、食環境の改善を提案する

食品学の講義では、食品中の成分、構造、機能から食品を捉えて、食品の種類、加工法、貯蔵法について学びます。食品学実験では食品成分の分析を通して、食品成分の反応性、定量化などから食品を評価し、食品の取り扱いや食品選びに活かせる知識を得ます。岐阜産食材には、ぎふベジはじめ、飛騨美濃伝統野菜、飛騨牛、美濃県豚、飛騨県豚、奥美濃古地鶏、鮎など岐阜の大切な食材が多く存在します。食品学で得た知見を活かして、岐阜県産食材を活用した食環境にも考慮した健康法について研究しています。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

食品の加工特性と機能性に関する地域実践演習（卒業研究）

興味ある食品や食品成分についての学びを深めます。ゼミ生による紹介：自分が好きな食品から生まれる疑問や、やってみたかったことを先生や友達の力を借りながらできる研究（ゼミ）です。食品によって体に影響することは違うため、ゼミを通して新しい知識を得たり、今後の生活に繋がっていきます。食品機能や加工は楽しくできる分野で視野を広げられるのでお勧めです！自分の気になるを自分で解決するという面白いゼミです。何より自由度の高さが魅力です。単独で研究を進められるため、自分のペースで自分のやりたいことを研究することができます。将来食品会社や外食産業で新商品・新メニューの開発をしたい！という方にお勧めです。研究をするための器具が豊富にそろっています。



教授 松井卓哉

専門分野

解剖生理学
薬理学
健康科学

学位・資格

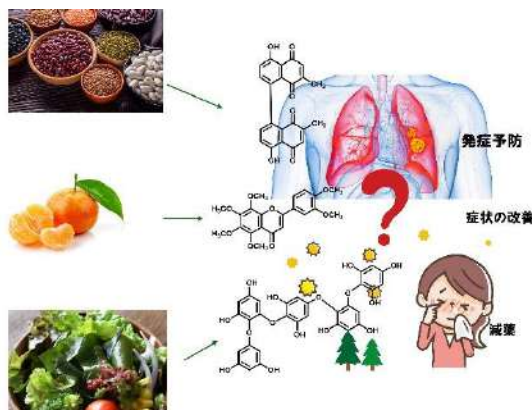
博士（医学）
薬剤師
生理学エディター

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

解剖生理および病態生理の専門分野は、人体の正常な構造・機能と異常の仕組みを明らかにし、社会の健康課題に直接関わっています。例えば、食品の摂取と体内での消化・吸収の理解は、栄養管理や疾病予防の基盤となります。また、アレルギーは免疫機能の過剰反応として病態生理的に説明され、食品表示や医療対応など社会的対策に結びついています。さらに、がんは細胞の異常増殖という病態生理の理解をもとに、予防・早期発見・治療法の開発が進められています。このように、解剖生理と病態生理の知見は、食品、アレルギー、がんといった身近な課題を通して社会と密接に結びついています。その一助として、ミカン科植物やマメ科植物などの天然資源からの抽出物や単離・構造決定した有機化合物のアレルギーやがんに対する生物学的効果の研究に取り組んでいます。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

天然資源から単離・構造決定した天然有機化合物の抗炎症作用

ミカン科植物は約2000種類、マメ科植物は約20000種ほど世界中に存在し、食品、医療、香料、農業など様々な分野で人間社会に関わりを持っています。そして古くから天然資源からの機能性成分の探索が行われています。これまでにミカン科植物やマメ科植物からポリメトキシフラボノイド、キサントン、カルバゾールアルカロイドなど多くの天然有機化合物を単離・構造決定し、抗アレルギー効果や抗腫瘍効果の細胞内機構の解析を試み、論文報告しております。岐阜県には様々な伝統的な植物資源を使った食文化が存在しておりますので、これらを研究材料として機能解析を行ってまいります。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

本当は利用できるのでは？

日本の食文化や地域ごとの違いに目を向け、各地に眠る未利用の食材に着目した研究を行います。これらの食材がもつ成分や機能を培養細胞を使って解析し、健康との関わりを探ることを目指します。伝統や地域の特色を大切にしながら、身近な視点で新たな食材の活用可能性を見出していき、学生にも取り組みやすい内容です。



准教授 佐野 真也

専門分野

スポーツバイオメカニクス

学位・資格

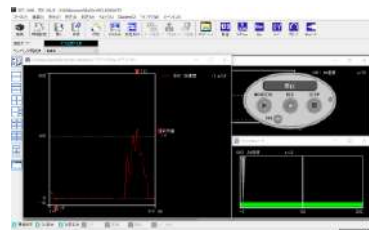
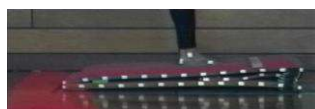
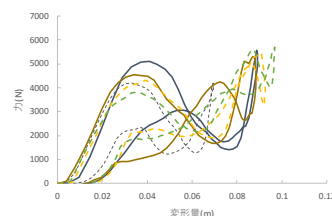
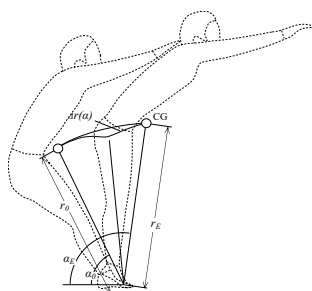
博士（情報科学）
日本体操協会公認審判員（2種）
全日本スキー連盟公認準指導員

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

スポーツ活動でみられるダイナミックな身体動作の力学的なメカニズムを研究しています。スポーツ活動で用いられる器具や用具の力学的特性も研究対象です。両者を併せることで、器具や用具の安全性の評価などに結びついていきます。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

体操競技用跳躍板の力学的特性の検証

体操競技の種目の一つである跳馬では、跳躍板を踏切動作に用いることで高度な技を実施することができます。跳躍板はレギュレーションに則り一定の基準の元で作られています。メーカーによって跳躍板のフィーリングが異なることや踏切位置によって弾み方に差があることなどを選手達は感じ取っています。現在、跳躍板の力学的特性（弾性や緩衝性など）に踏切位置によってどのような差があるのかということや、それが踏切動作にどのような影響があるのかということなどを明らかにしようとしています。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

『健康とスポーツ』（教養科目）の授業紹介

運動、栄養、休養は「健康の三本柱」とあると言われています。この授業は、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的としています。授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせ実施されています。このうちスポーツの実践では、楽しむことを重視しています。また、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行っています。講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学んでいます。



准教授 長屋 郁子

専門分野

栄養教育
食育

学位・資格

修士(生活科学)
管理栄養士

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

食を通じた子育て支援や健康づくりなど、生涯にわたる栄養教育・食育にかかわる研究を行っています。
主に岐阜県内の地域と連携・協働し、「地域特有の食文化継承」、「自然に健康になれる持続可能な食環境の整備」を中心に、多様な場に応じた栄養教育・食育の推進を目指しています。

■ 地域特有の食文化継承

岐阜県の家料理を継続的に聞き書き調査し、その成果を学会発表や、書籍・季刊誌にまとめています。また、調査内容を基に地域の多様な食文化を次世代へ伝え継ぐ活動を、地域の関係者と連携しながらすすめています。

■ 「自然に健康になれる持続可能な食環境整備」の取り組み

地域住民がより健康的な食生活を送るには、地域全体の食環境づくりが大切です。近年は、岐阜市保健所健康づくり課や地域企業との産官学連携で、ナッジ（人々の行動をそっと促す行動科学の手法）を用いた具体的な食環境整備に取り組んでいます。

■ 効果的な栄養教育方法の検討

地域の関係者と連携・協働し、多様な健康・栄養問題への食支援や、災害等に備えた食育など、行動変容を促すために効果的な栄養教育方法を検討し、推進しています。

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

岐阜の喫茶文化を継承するメニュー「こまつな日和」の開発

2026年2月、岐阜の喫茶文化を次世代にも親しんでもらおうと、健康栄養学科学生2名が、岐阜市喫茶文化振興協議会に加盟する喫茶店3店舗と協働し、コラボメニュー「こまつな日和」の開発に取り組みしました。岐阜市の特産である「こまつな」を使用し、各店舗の特色をいかしたワッフル&ベーグル&トーストに仕上げました。腸活を意識して考案したオリジナルソースには、地元の株式会社芋慶にご協力いただき、岐阜市学校給食で親しまれている「岐福(ぎふ)味噌」を使用しました。メニューはいずれも好評で、4月に行われた道三まつり「あおぞら喫茶ぎふ」でも、アレンジメニューとして販売しました。



↑上から時計回りに、
「こまつな日和ワッフル」 @茶洋館マサラ
「こまつな日和ベーグル」 @ Hidamari café
「こまつな日和トースト」 @ アイランドカフェ

授業紹介／ゼミ生による教員紹介

2026年度ゼミ生が、ゼミ活動&先生を紹介します!!

長屋ゼミは、地域の食育実践活動に取り組み、地域の方々との出会いを通して学んでいます。今年度は、昨年度から継続し、岐阜市健康づくり課と株式会社パローホールディングスとの産官学連携事業「#ぎふ 野菜アップでヘルスアップ」を予定しています。地域住民が野菜摂取量を増やしたくなるような食環境づくりを目指して、野菜レシピやPOP(店頭プロモーション広告)作成などに取り組みます。

長屋先生は、とても優しく、私たち一人ひとりの意見を尊重してくださいます。授業も丁寧でわかりやすいです。



↑2025年度ゼミ生考案
かんたん野菜レシピは、
岐阜市公式HPで情報公開中

↑2025年度 産官学連携事業
スーパーマーケット売り場様子



専任講師 吉川 亮平

専門分野

臨床栄養学
応用栄養学

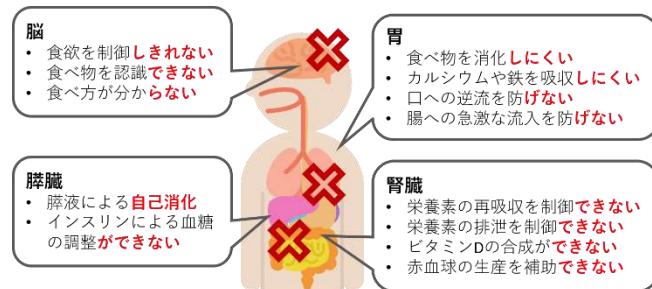
学位・資格

博士(栄養学)
管理栄養士研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

臨床栄養学と応用栄養学の講義などを担当しています。臨床栄養学は傷病者、応用栄養学は主として健常者の栄養管理について取り扱う分野です。一口に傷病者や健常者といっても、病気やライフステージ、環境が異なると、注目することも変化します。様々な要素を考慮した栄養管理を行うために、人の成長や加齢に伴う変化や人体の構造と機能、疾患の成り立ちなどについても学びます。

具体的に知識が活用できる場としては、生活習慣病などの一次予防、二次予防、三次予防に関わる行政や学校、病院、介護施設などがあります。栄養士として働きたいと考える学生はもちろんですが、学ぶことにより家族や周りの人の健康を支えることにもつながると考えます。



低下したり失った身体機能を
助けるための食事等の方法を学ぶことで
傷病者を栄養面から支援できる

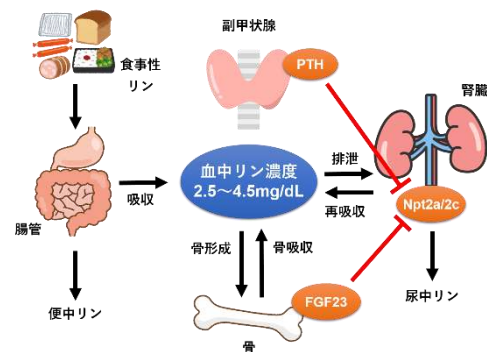
臨床栄養学のイメージ

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

リンの過剰摂取と健康障害について

リンは生体内で必要不可欠なミネラルであり、骨の材料になる他にも多くの機能があります。血中リン濃度は腎臓、骨、副甲状腺、腸管などの臓器との相互作用によって調整されていますが、その中心は腎臓からのリン排泄で、腎機能が低下すると血中リン濃度が増加することが知られています。慢性腎臓病の高リン血症が骨ミネラル代謝異常を引き起こすことが知られていますが、健常者であっても血中リン濃度が高い人ほど循環器疾患のリスクが高いことも報告されており、リン毒性という概念が生まれています。食品添加物に含まれる隠れたリンからの過剰摂取が懸念されており、食事性リンが生体に及ぼす影響について研究しています。



生体内におけるリン調節機構

授業紹介／ゼミ生による教員紹介

『臨床栄養学実習』の授業紹介

臨床栄養学実習では、病院などの臨床現場で必要となる栄養管理について、症例検討や調理実習を通して実践的に学びます。身体状況、検査値、食事摂取状況などの情報から栄養アセスメントを行い、対象者に応じた栄養ケア計画を考えます。また、エネルギー・たんぱく質・塩分などに配慮した特別治療食や、嚥下機能に応じた形態調整食の調理にも取り組みます。知識と技術を結びつけ、臨床の場で求められる判断力と実践力を養うことを目指します。



専任講師 佐喜眞 未帆

専門分野

ライフステージ別栄養管理
栄養管理
食事計画

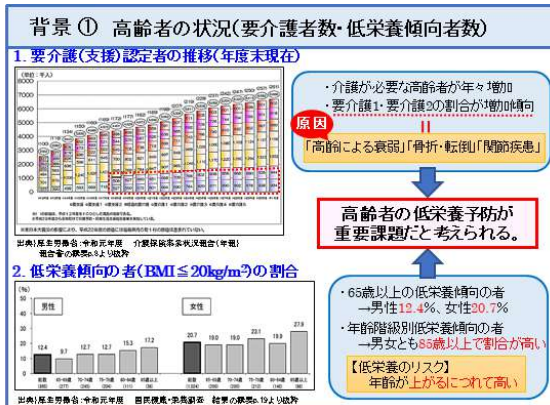
学位・資格

博士（医学）
管理栄養士研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

実践可能な健康づくり（疾病予防）
～食に関するトレンドをつかみ実用的な研究を目指す～

研究例：家庭用電気圧力鍋を用いた介護予防食の開発



背景①
健康問題
+
背景②
食に関する
トレンド



背景②

2020年以降 新型コロナウイルス感染症による巣もり需要高

→ 「調理家電」なかでも電気圧力鍋の普及率が上昇

最近の活動紹介

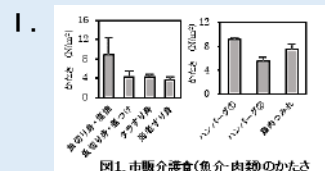
教育活動／研究活動

家庭用電気圧力鍋を用いた介護予防献立（主菜）の開発
～エビデンスに基づく献立の開発～

- I. 市販されている介護食から開発献立の「**かたさ基準**」を作成。
開発した献立は、数値で確認・評価します。
- II. 対象者の生理的・身体的特性を把握して、**必要なエネルギー**
および**栄養素が確保できる、食べやすさ**に配慮した献立開発
を行っています。

- ◆ 鮭のコンソメスープ煮追いレモンかけ
- ◆ 蒸し鶏のごま坦々スープ仕立て、他

※研究成果は、地域貢献（公開講座等）授業や卒研指導に役立てています



地域貢献活動

給食の運営（調理学・給食管理）

栄養士が提供する給食は、食事の提供を通じて喫食者のQOLの向上に寄与するだけでなく、安心・安全でおいしい食事であることが求められます。「給食管理」では、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識と技術について学びます。また調理学をはじめ、栄養士専門科目で学ぶすべての科目をつなぎ実践力を養います。

1年生では調理学、調理学実習、給食管理、給食管理実習Ⅰを通して給食の運営に必要な知識と基礎的なスキルを修得し、2年生では給食管理実習Ⅱを通して、献立計画～実施（提供）、評価まで全ての栄養士業務を体験し、「栄養士校外実習」のための準備を行います。



教育・研究・地域貢献などへの抱負

健康栄養学科では必要な専門知識と技術を身につけるため、様々な講義及び実験・実習の授業があります。その中でも主に実験系の授業のサポートについています。薬品や特殊な器具を扱う実験は馴染みのない学生が多いため、まずは安全を第一に事故や怪我のないよう配慮したうえで、学生が苦手意識をもつことのないよう個々に細かく対応するよう心がけています。授業中はもとより、学生が学びやすく過ごしやすい環境を整え、準備の段階から教育効果を高めるべく取り組んでいます。

助手 渡邊 優子



教育・研究・地域貢献などへの抱負

本学では「健康の保持増進に役立つ幅広い視野と科学性に富む人材育成」という教育目標のもと、「栄養士」を育成しています。高度な専門知識・技能を修得するために多くの実習・実験を取り入れています。その中でも主に調理実習を中心に、実習がスムーズに、また学生がより深く理解できるように実習のサポートをしています。

短大に入学して初めて調理をする学生に対しても「調理って楽しい!」と思ってもらえるように親身になって学生の手助けをすることを心掛けています。

助手 酒井 千恵



教育・研究・地域貢献などへの抱負

実習や実験において、学生が栄養士になるための知識を習得する手助けをしています。

実習、実験の内容は科目によって多岐にわたります。それぞれに応じて、授業が円滑に進められるように準備をしています。授業中はクラス全体に気を配り、困っている学生には声をかけて、必要であればアシストしています。授業後も学生の質問に対して個別に対応しています。これからも学生にとって質問しやすい身近な存在でありたいと思います。

助手 黒木 由希子



デザイン環境学科

Department of Design and Environment

ファッション領域

教 授 福村 愛美
教 授 岩崎 之勇
准 教 授 太田 幸一
助 教 柴田 佐和子

建築・インテリア領域

教 授 服部 宏己
准 教 授 畑中 久美子
准 教 授 加藤 祥子
准 教 授 臼井 直之

ヴィジュアル・情報領域

准 教 授 奥村 和則
准 教 授 神谷 勇毅
専任講師 宮川 友子





ファッション領域

教授 福村 愛美

専門分野

服飾造形
被服心理学

学位・資格

博士（環境学）
修士（家政学）
高校・中学校教員免許（家庭）研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

国際交流

ウィーンマイドリング区代表訪問団が2024年7月8日に岐阜市に訪問した際に本校にも見学に来て頂きました。その時にデザイン環境学科ファッション領域の学生によるファッションショーを行い、訪問団に大変好評で盛り上がりました。ファッションショーを通して海外のファッション関係者とも交流ができ、学生にとっても有意義なひと時が過ごせたよい経験でした。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

産学連携事業

「ラインマンのスタイリッシュワークウェア開発プロジェクト」

社会基盤を支える電力の安定供給に不可欠な架空送電線工事の従事者（ラインマン）は年々減少していて、全国規模で人材不足が問題になっています。この問題に対し、地域・現場でできる取り組みとして、岐阜市立女子短期大学と中部電力パワーグリッドが、ラインマンの社会的認知度向上に向け、更なる安全性・機能性に加えて、デザイン性・視認性を兼ね備えた「スタイリッシュワークウェアの開発プロジェクト」にデザイン環境学科ファッション領域の学生10名が参加し、ユニフォームを完成させました。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

ファッション造形・デザインゼミ紹介

ファッション造形演習ではスカートやブラウス、ワンピース、浴衣などを製作しています。
卒業制作のゼミではのびのびと好きなことで、やりたいことができます。自分で考えたテーマで研究し、衣裳制作をしています。ロココ調のドレスやジェンダーレスの衣服なども制作したりしています。
先生との距離が近くて、なんでも相談しやすいことが良いところです。
和気あいあいと楽しく服作りをしています。



ファッション領域
教授 岩崎 之勇

専門分野

MOT（技術経営）
ファッションビジネス
地域産業
知的財産法
高分子化学

学位・資格

博士（技術経営）

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

地域産業の切り口からいくつかの研究を進めています。

専門分野は、若人時代に学校で学んだ高分子化学、会社員時代に取得した弁理士資格に基づく知的財産法、壮年時代に二足の草鞋で大学院に通って取得した博士号に基づくMOT（技術経営）、そして企業から大学へ転向後に研究対象としたファッションビジネスです。

これまで、中堅化学系企業のR&Dマネジメント、保育活動に適した仕事着とその制服化、そして環境に配慮したポリエステル染色法などの研究を行ってきました。

その地域特有の産業に着目し、分析を加え、課題を炙り出し、解決法を導き出すことで地域社会発展の一助となればとの思いから、日々の業務に取り組んでいます。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

あなたも特許が取れるかも!?
～入門・特許調査をしてみよう～

市民向け大学連携講座の講師として、掲題を開催してきました。講座前半では、自分が思いついたアイデアで特許をとる方法を学ぶこと、そして特許をとるためには新規性・進歩性の有無を確かめる特許調査が必要であることなどを座学研修し、その後半では、世界中の特許などに関する情報を無料で検索・閲覧できる特許情報プラットフォームを用いた特許調査を実際に体験していただきました。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

ブランドマーチャンダイジング

ファッションブランドの世界観やコンセプトの構築方法を学び、商品ラインの企画、素材・カラーの選定、VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）、プロモーション計画など、ブランドづくりに必要な基礎的知識と実践的な手法を身につけることを目標に開講しています。

学生一人ひとりが架空のブランドを立ち上げ、シーズン企画から最終プレゼンテーションまでを通して、ブランド企画の一連の流れを体験する、起業に直結した実践的授業としての位置づけです。



ファッション領域
准教授 太田 幸一

専門分野

繊維工学
被服材料学
被服整理学
被服衛生学

学位・資格

博士（工学）
第1種情報処理技術者

研究者情報
(Research Map)

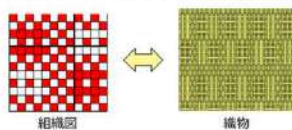


専門分野と社会との関わり

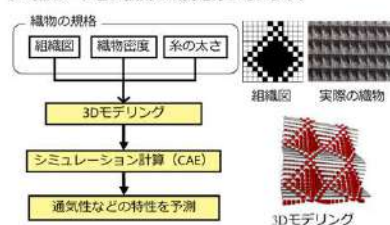
繊維・編物の製造技術を中心に研究を行っており、繊維の出来上がりの状態の確認を簡単にできるように、繊維シミュレーション技術の研究を行っています。また、布の肌触りや着心地に関する研究も行っています。近年は洗濯に関する研究を行っており、洗濯機の効率や、洗濯と環境問題に関する研究も取り組んでいます。

繊維のコンピュータシミュレーション

繊維の織り方は「組織図」と呼ばれる設計図で表す組織図では繊維の出来上りを想像することは困難



繊維の出来上りの状態を容易に行うことができるよう、シミュレーション技術の研究を行っています。



洗濯機械力の評価方法に関する研究

洗濯における三要素



海洋生物の行動調査に用いるデータロガーを機械力の評価に応用



洗濯機内の洗濯物の運動データ

洗浄効率のよい洗濯条件を導き出す

評価例：災害避難時における簡易洗濯方法



袋の中にTシャツ、液体洗剤(5ml)、水(1L)を入れ洗濯する
5分間
振ったり
絞ったりする

簡易洗濯法5分で
洗濯機内永続15分(国産130)と
同等の洗濯機械力

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

繊維材料のリサイクル技術に関する研究

ブランド品の大量廃棄やプラスチックゴミによる環境汚染が社会問題となっています。そこで、さまざまな繊維素材ののリサイクルについての技術開発に取り組んでいます。

絹の屑繭から抽出したタンパク質や、外来植物を粉砕したリグニン・セルロース混合物を原料として他の水溶性タンパク質と混合して再利用できる材料を作成する手法について検討しています。また、布地の端切れなどから繊維と取り出し断熱材に加工する方法についても検討しています。

これらのリサイクル技術については、学生の協力の下、地域で開催するワークショップなどで啓発に努めています。



セイタカアワダチソウ粉末の樹脂化



廃棄繊維を使った子供向けワークショップ

授業紹介／ゼミ生による教員紹介

テキスタイル素材演習・テキスタイル染色演習

繊維の種類やその特性、布の種類やその特性、染色の原理と評価方法、洗濯などの衣服ケアの原理を知り、テキスタイル素材の合理的かつ機能的利用の指針を得るための実験的演習です。実際に実験をしたうえでレポートを作成することで、素材の特性などの知識をより深めてもらっています。卒業後に検査・品質管理系の職に就いた卒業生からは、「演習内容がそのまま現在の業務内容なのでとても役に立っています」との評価を受けています。



ファッション領域
助教 柴田 佐和子

専門分野

服飾造形
ファッションデザイン

学位・資格

修士（生活科学）

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

テキスタイルや衣服にならずに廃棄される繊維資材や、不要となった繊維製品などの繊維廃棄物を削減するため、これら資材の有効な再資源化について研究しています。

また、学生とともに近隣の産地と連携したオリジナルテキスタイルの製織に取り組んでいるほか、地域イベントのファッションショーや展示会に向けた衣装制作など、テキスタイルや服飾作品を通じた地域連携活動にも積極的に取り組んでいます。



廃棄もののぼりを用いた衣服制作



BISHU THE SHOW



TWEED RUN BISHU in GIFU

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

地の利を活かしたフィールドワーク

岐阜市は古くからファッションの街として知られ、アパレルや縫製関連の企業が数多く集まっています。また、隣接する羽島市や一宮市は、毛織物の産地として世界的に有名な地域です。これらの一大産地に近接しているという「地の利」を活かし、ファッション領域の学生を対象とした学外研修を毎年実施しています。実際に稼働している機屋（はたや）や染色工場、縫製工場などの製造現場を見学することで、学生たちは織物や衣服の製造に関する知識を深め、自身の作品制作に活かしています。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

着たい！を形にする

服飾造形の基礎から独創的なデザイン、さらにはビジネスまで、多角的な視点でファッションの学びをサポートしてくれます。たとえば『ファッション造形演習』では、着心地の良いパターンの製図や効率的な縫製など、衣服制作に必要なスキルや知識を段階的に学べます。さらに『地域実践演習（卒業研究）』では、より応用的な服作りに挑戦し、「着たい！」を形にするための実践力を身につけることができます。



建築・インテリア領域
教授 服部 宏己

専門分野

構造教育
構造設計
コンクリート工学
耐震診断・耐震補強

学位・資格

博士（工学）
一級建築士

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

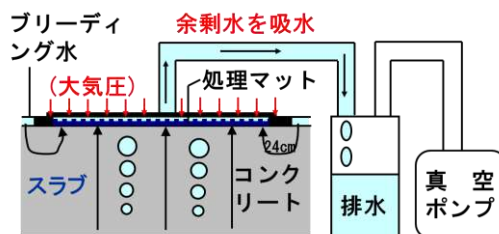
真空脱水コンクリートの品質改善に関する研究、耐震診断および耐震改修工法に関する研究を行ってきており、現在は特に建築構造教育ツールの開発に関する研究に力をいれています。多数の構造設計の実務を経験し、耐震診断・耐震補強の審査委員も務めています。自然災害に対する安全・安心な建物や構造技術・構造教育の開発に取り組んでいます。

コンクリート床スラブは、コンクリートの性質上、ブリーディング現象によって上層に不可避免的な弱化層が生じる。

性能低下
・コンクリートの耐摩耗性の低下
・コンクリート表面の損傷
・床仕上材の膨れ、剥離
・乾燥収縮ひび割れの増大
・耐久性の低下 など

真空脱水工法は、これらの問題を根本的に改善する工法

コンクリート床スラブの表層部の性能改善



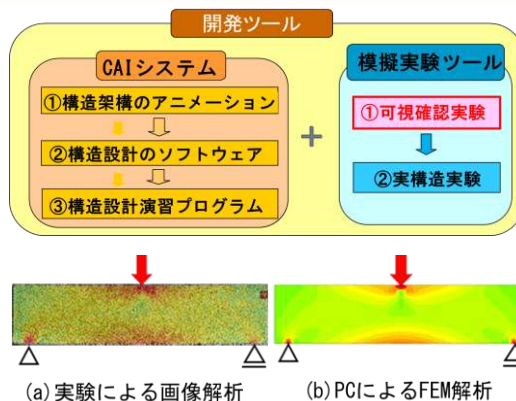
真空脱水工法の概略図

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

視覚的に理解できる建築構造教育ツールの開発

近年、全国各地で地震が多発し、南海トラフ巨大地震の発生が叫ばれている中で、建物の安全性に対する社会的な要求が急速に高まっています。建築を志す初学者においては、建物の耐震性を学ぶ際に、理論的に煩雑であることから建築構造を苦手とする学生は比較的多いのが実情です。そこで、理系科目を苦手とする文系学生にも理解しやすいように、視覚的に理解し体験できる建築構造教育ツールの開発に力を入れています。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

構造を楽しく学び自己成長できる

建築構造・材料研究室は、二つの分野に分かれています。一つ目の建築構造分野では、地域の課題や目標などを検討し、問題解決につながる建物を構造的な特徴を持たせて設計・制作を行います。さらに、歴史的建造物を対象として、仕組みがわかる復元模型やツールの製作を行っています。二つ目の構造材料分野では、建築物に使用されている材料の研究として、産業面から見た問題解決への提案をしています。そして、専門的で理解が難しい構造設計の知識について、視覚的に分かりやすい教育ツールの製作を行っています。建築構造と聞くと難しく感じるかもしれませんが、小さな疑問でも先生と一緒に頭を悩ませて解決策を見つけてくれるため、研究意欲が向上し、夢中で取り組んでしまいます。それぞれの個性や理想を実現させることができるのが、このゼミの魅力だと感じます。



建築・インテリア領域

准教授 畑中 久美子

専門分野

土壁の研究と実践
デザインビルド
環境共生建築
パウビオロジー

学位・資格

博士（学術）
一級建築士

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

土を使った建築を研究・実践しています。土壁は製造エネルギーが低く、どこにでもある自然素材で、日本建築で土壁は古来から用いられています。土壁に厚みがあればあるほど蓄熱体として活用することができます。この特徴を利用して冷暖房負荷が低い自然素材の建築が実現できることがわかりました。設計段階からシミュレーションを用いて熱性能を予測し、土壁を現代建築に用いる研究と実践を行っています。



O社ギャラリー 現場土を用いた版築ベンチと現場土を多治見で焼いたタイル

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

日本における土・石積み構法に関する研究 兵庫県丹波篠山市の灰屋の調査

丹波篠山市には、築百年程度の土・石積み壁で構成された小屋が数多く現存します。それは灰屋（はんや）と呼ばれており、黒豆の栽培時に必要な肥料となる焼灰を作る小屋として使われています。灰屋は、農家が自ら作った事例もあり、耐用年数が長いものも多く存在します。本研究では、土・石積み構法の壁が現代建築における土壁構法の選択肢となるための基礎資料となることを目標として、丹波篠山市の灰屋について建物の構成やルーツ、その利用方法を調査し、その建築的特質を明らかにするものです。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

現場での五感を通した実践的教育/永井のぞみ

畑中先生は建築専門で、特に版築や土壁、自然素材を用いた環境共生住宅、商業施設設計など、多岐にわたる建築活動をされています。ワークショップで参加者と共につくる「参加型建築」も実践されています。

授業では、建築分野だけでなく泥だんご作りや車いす体験などユニークな体験もできます。先生の授業やゼミの最大の特徴としては、フィールドワークで、現場で五感を通して実践的な学びが得られます。学生一人ひとりの興味や理解度に合わせて丁寧に指導し、小さな疑問にも的確なアドバイスをくれるため、安心して研究に取り組めます。



信長塀の3Dスキャンの様子



建築・インテリア領域

准教授 加藤 祥子

専門分野

建築物緑化
室内緑化
環境心理

学位・資格

博士（学術）

研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

身近な自然、植物が人間の心理に及ぼす影響に関する研究を行っています。人々が快適に、健康的に、生活するには、身近な空間に自然の要素は欠かせません。一方、そういった認識は経験上では持たれていますが、科学的な証拠(エビデンス)は十分には認識されていません。それらを研究で明らかにするとともに、既往の研究によって明らかにされている知見をまとめ、課題を抽出する取り組みも行っています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

自然物導入の志向と環境配慮行動

建物内に自然素材や植物などの自然を取り入れたデザインは、バイオフィリックデザイン(BD)と呼ばれ、在室者の健康を高める手法として注目されています。オフィスにBDを取り入れたいと思うかワーカーに調査したところ、BDが費用に見合う効果があれば、導入を検討してほしいとの意見が、他の生産性に資する施設の導入要望と同程度の約3割見られました。BD志向の高い人は、日常的に環境配慮行動をとっていることも分かりました。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

ゼミ生によるインテリアデザイン研究室の紹介

加藤先生のインテリアデザイン研究室では、1年次には木材を使用した家具の製作、2年次にはインテリアや環境共生に関する卒業制作に取り組みます。ゼミの時間は学生それぞれが真剣に課題に向き合い、黙々と作品制作を進めています。制作が思うように進まなかったり、アイデアに行き詰まったりしたときは迷わず加藤先生に相談しています。ひとりひとりの悩みに対して真摯に耳を傾けてくださり、学生の考えを尊重しながらもより良い表現や方向性を一緒に考えてくださる姿勢にいつも支えられています。



建築・インテリア領域
准教授 臼井 直之

専門分野

建築設計
建築計画
地域デザイン

学位・資格

修士（建築学）
一級建築士

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

公共施設や公共空間、あるいは個人の住宅などの計画や設計を行っています。その施設や空間がその地域の中でどのようにあるべきかを多角的に考えています。さらに、中山間地域における大規模な別荘地の研究を行っています。それらは、着眼点や規模が全く異なりますが、共通していることは人が利用するということです。建築や都市は、人が生活を営むための総合的な環境であり、スケールを横断しながら幅広く取り組むことで、豊かな空間作りに繋げようとしています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

セントラルパーク金公園およびパブリックトイレの設計

岐阜市の中心市街地にある金公園のリニューアルには、設計者の一人として参画しました。大きな芝生広場の周辺には、居心地の良いスケール感の居場所が点在するように設け、さまざまな人が思い思いの過ごし方で都市空間を楽しめるように心掛けました。また、公園内のパブリックトイレは、通り抜け型の平面計画とすることで、“裏側”や“行き止まり”を無くし、女性や子供たちも安心して使えるようにしました。コンクリートの特性と素材感を素直に表現し、ガラスを多用した明るい建築としました。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

なぜそうなっているのか どうしてそうしたのか

公共施設計画論では、たくさんの図面と写真を用いて、ビルディングタイプごとの特徴の説明がなされます。建築法規では、建築基準法と関連法規について、教科書の内容を丁寧に教えてくださいます。建築や法律がなぜそうなっているかを学ぶことで、記憶にも残ります。

卒業制作(地域実践演習)では、学生同士の議論が尊重されます。先生はその議論の中から、新しい考え方に繋がりそうなことを指摘します。どうしてそうしたのを人に伝えるために大切なことや、その考え方を身につけることができます。



ヴィジュアル・情報領域
准教授 奥村 和則

専門分野

メディアデザイン
伝統工芸と造形
デジタル・ファブリケーション
情報デザイン

学位・資格

修士（学術）

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

情報伝達するメディアの特性を活かした情報発信の方法や、パッケージを含めた立体物とデザインについて、制作や企画、監修をしています。

また、伝統工芸とその技能を現代のライフスタイルに合わせた取り組みを、学生とともに研究しており、デジタル・ファブリケーション（デジタルデータをレーザー加工機や3Dプリンターなどを用いて制作する方法）による解決などの提案をいたします。



アクリルによるタペストリー



3D プリンターを活用した行灯



伝統工芸の取り組み 作例

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

情報モラルを高めるための取り組み

オンライン活用の重要性が高まる今日において、情報モラルやネットリテラシーの向上も重要であるといえます。特に、児童が単独でネットワークを使用するケースが増加していることから、児童に対する情報モラル向上が社会的にも急務だと考え、高大連携プロジェクトとして岐南工業高校の皆さんと本メディアデザイン研究室ゼミ生とで取り組みました。今後、小学校での検証を経て更なるブラッシュアップを計画しております。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

みんなで考えるからオモシロい

私たちがゼミの中で考えるメディアデザインとは、
① 情報伝達のためのメディアをデザインすること
② 得た情報を解釈し、異なるメディアで他者に伝えること
③ コミュニケーションを促す仕組みを構築すること
の3つです。これらを基本に、各自の制作テーマをゼミの先生とのエスキース（話し合い）や、ゼミ生みんなでのプレストお互いにアイデアを出し合い、高め合っています。

緊張感もありますが、多くの時間、笑顔で話し合えるゼミです。



ヴィジュアル・情報領域

准教授 神谷 勇毅

専門分野

教育工学

IoT (Internet of Things) 教育利活用

学位・資格

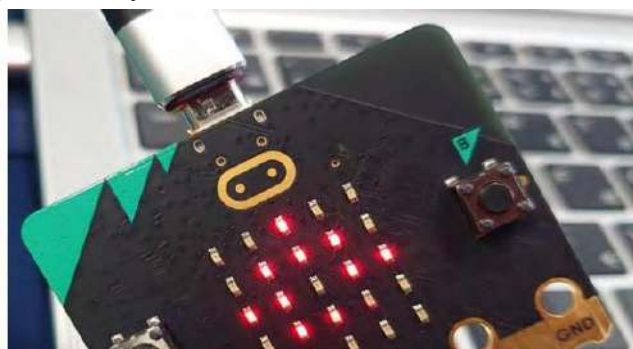
博士 (経済情報)

研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

毎日の暮らしの中にあるモノたちがインターネットとつながる「IoT (アイオーティー)」や、動きや音など様々な環境変化を感じ取る「センシング技術」って、ちょっとワクワクしませんか？ 私はそんな最新技術を、教育の現場でどう活かせるかを研究しています。たとえば、動く音が鳴ったり、光ったりする教材をつくって、学びの場をもっと楽しく・面白くできないかを探っています。センサを使えば、ふだん見過ごしていたことにも気づけて、新しい学びが生まれます。未来の授業って、未来の学習ってどんなだろう？ そんな問いを追っています。

※この研究は、日本学術振興会の科学研究費 (23K02427) の助成を受けて行っています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

“デザイン”で、人の心を動かしたい。

岐阜駅北口を彩る秋から冬のイルミネーション。ここに投影されるプロジェクションライトの“光のデザイン”をデザイン環境学科の学生が手がけました。このプロジェクトは、街の空間に「人の心を動かすデザイン」を届けようという取り組みです。どんなデザインなら足を止めてもらえるか、どんな形や色なら笑顔が生まれるか。学生たちは、アイデアを出し合い、何度も試作と検証を重ねて完成させました。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

- ・チョコが大好き♡
- ・チャットで()を付けがち
- ・適確なアドバイスをくれる
- ・賢い授業内容をされています

- ・個性的なスニーカー
- ・木材についてくわしい
- ・ピアノが弾けます。あとオーボエ
- ・話しやすい先生です
- ・リテラシーの概念にきびしい



ヴィジュアル・情報領域

専任講師 宮川 友子

専門分野

グラフィックデザイン
ポスターアート

学位・資格

修士（美術）、学士（教育）
小学校教諭一種免許状
中学校教諭一種免許状（美術）
高等学校教諭一種免許状（美術）研究者情報
(Research Map)

専門分野と社会との関わり

人は受け取る情報の8割を視覚から得ているといわれています。グラフィックデザインの分野はその橋渡しをする紙やWebなどを始めとする平面的な媒体において、伝えたいことを素早く誤解なく伝え、働きかける役割があります。複雑な現代社会において、多様なクライアントを想定し、効果的に視覚的に伝えることを伝えていきたいです。

ポスターという媒体は、大型かつ限られたサイズの中で、一瞬で人の目と心をつかみ、必要な情報を伝えることができる分野です。画家がデザイナーを兼ねていた近代から始まり、大戦や大量消費の時代を経て、現代または将来、主題や手法が変わっていても、ヴィジュアルの力は必要とされ続けるでしょう。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

ポーランドポスターについてのメルマガと「女性ポスター展」

「ポーランドポスター」は現代のグラフィックデザインに大きな影響を与えてきました。大垣市にある日本国際ポスター美術館で収集してきた世界の現代ポスターの中から、その名作の解説やデザイナー、広告塔のある文化について、2022年度に12回、月刊でメルマガジンを書きました。

2023年5月～6月大垣市スイトピアセンターで、7月岐阜市文化会館で「世界の女性ポスターデザイナー展」を企画し、世界17か国31名の女性デザイナーのポスターを156点展示しました。

ポーランド広告塔百景⑨



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

和やかで柔らかい雰囲気

宮川先生の授業は大変和やかな雰囲気です。グラフィックデザインの授業では、アイディアスケッチから完成品の印刷まで生徒一人一人に寄り添って相談を聞いてくださいます。わからないことがあった時やアイディアに行き詰まった時に相談しやすく、とても楽しくのびのびと課題制作に取り組めます。また、旅行のお話や最近のデザインについてのニュースなどを沢山共有してくださり、それらも大変興味深いです。

研究室でも同様に、ゼミ生が先生とコミュニケーションを取り学生のやりたいことを尊重しながら様々な視点での確にアドバイスをしてくださるので、とても尊敬しています。





岐阜市立女子短期大学
Gifu City Women's College

〒501-0192 岐阜市一日市場北町7-1
Tel. 058-296-3131 Fax. 058-296-3130
<https://www.gifu-cwc.ac.jp/>

